―――――――――――――・――――・――――――――――――

日程第１．会派代表質問

○議長（小川　廣康君）　日程第１、会派代表質問を行います。

この際、申し上げます。発言時間については、申し合わせにより時間内に終わるように御協力をお願いいたします。

また、関連質問につきましては、通告者と同会派の議員とし、本質問の内容と関係のあるもので、本質問者の持ち時間内としておりますので、そのように御了承願います。本日の登壇は１会派を予定しております。

それでは、通告により発言を許可いたします。会派つしま、１３番、齋藤久光君。

○議員（１３番　齋藤　久光君）　おはようございます。会派つしま、齋藤久光です。

会派代表質問を通告しておりましたので、質問をさせていただきます。

それでは、対馬の基幹産業の農林水産業についてのＳＤＧｓ未来都市計画について、対馬の森林・里山は荒廃の一途をたどっているところであります。対馬が自立と循環の宝の島であり続けるために、森林・里山の生態系の回復、整備は急務であると思います。ＳＤＧｓ未来都市計画における具体的な方策についてお尋ねをするものであります。

森林・里山の生態系の回復、農林業の継続・発展のためには、イノシシ、鹿の駆除をもっと強力に進めるべきではないかということが、会派つしまの同意であります。市長の見解をお尋ねいたしたいと思います。

関連質問については、小島議員が質問をいたします。内容については、海洋生態系の回復について、海ごみ回収・海洋プラスチックごみの再利用以外にどのような具体策があるのか、推進するのかをお尋ねするものであります。

以上、会派つしまの質問といたしますので、市長の見解をお願いしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　おはようございます。会派つしま、齋藤議員の質問にお答えいたします。

ＳＤＧｓ未来都市計画についてでございますけども、ＳＤＧｓは、人類が今後もこの地球上で生きていくための１７のゴールと１６９のターゲットから構成され、地球上の誰一人取り残さないことをうたっております。

本市といたしましても、このゴールに向かっていくために、山積する課題の中から、本市にとってインパクトが大きく優先するものを特定し、対馬市ＳＤＧｓ未来都市計画として施策を組み立てたものであります。

御質問の、森林・里山の生態系の回復のための具体的な方策についてでありますが、次の３つの方策を掲げております。

まず、第１点目が、バイオマス熱エネルギー利用の加速化、２点目が、森林整備の推進、３点目が、鹿対策の強化であります。

まず１点目の、バイオマス熱エネルギー利用の加速化につきましては、現在、民間による熱エネルギー会社が設立されておりまして、低質材の利用を促進し、森林の適正な管理や整備、推進につなげるとともに、脱炭素化を進めるものであります。

次に、森林整備の推進につきましては、森林整備によって得られたＪ―クレジットを販売することで、循環経済を促します。また、管理されずに放置されたままとなっている民有林の森林整備と木材の活用を推進し、地域経済の活性化と森林生態系の回復につなげるものであります。

鹿対策の強化につきましては、対馬の森林・里山は鹿が増加し、森林内の裸地化で森林伐採後の再造林や萌芽更新の妨げとなっております。その対策として、森林整備事業により防鹿ネットを設置しております。

令和２年度からは、森林環境譲与税を活用して、再造林支援に取り組み、山林の再生を図っているところでございます。また、駆除につきましては、令和元年度の捕獲実績はイノシシが５，３６７頭、鹿が８，２３６頭で、ここ二、三年は増加傾向にあります。しかし、捕獲に携わる有害鳥獣捕獲従事者数は１９３名ですが、その７３％が６０歳以上の方であり、高齢化が進んでおりますので、新たな捕獲従事者の掘り起こしを行うことが急務であり、今年度は新型コロナウイルス経済対策事業を活用し、新規に捕獲従事者になる方へ受験経費やわな等の経費などを補助する事業を追加し、従事者を倍増する事業を実施しているところでございます。

また、県内の市町では初めての取組として、対馬市有害鳥獣被害対策強化月間を１２月１日から令和３年１月３１日までの２か月間に設定し、期間中、捕獲した鹿の頭数に応じてくくりわなを支給し、捕獲頭数の拡大に努めております。

健全な森林を管理していくために、鹿の生息密度を適正頭数まで減少させることが必要であり、集中的に捕獲を進めることが肝要であります。

今後も捕獲強化と農地の防護対策の強化を図りつつ、粘り強く取り組んでまいる所存であります。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１３番、齋藤久光君。

○議員（１３番　齋藤　久光君）　ありがとうございます。今市長のほうからＳＤＧｓについて説明を受けましたので、それに従って、私も質問を、再質問をさせていただきたいと思います。

特に対馬市の山林・里山の現況について話はそれに持っていきたいと思っておりますが、対馬の人口減少、これが一番今大きく取り上げられている問題だろうと思います。昭和３５年、人口は６万９，５５６人おられたわけでございますけど、平成２７年になれば３万１，４５７人、令和

に入って今新聞等に載っているのが２万９，５４７人という、大変残念ではありますけれども、この対馬市の人口はここまで落ち込んでくれば、いろいろな産業も衰えていくと思います。

特にこれだけ減っていったのは、特に一次産業、農業、林業、水産業に携わっている家庭の減少が主でないかと思っております。特に対馬が変わったのは、磯焼けの影響、４０年間で対馬の特産のヒジキ、ワカメ、海産物等が９８％消失をいたしております。海の中を眺めているとほとんど真っ白、あれだけカジメ、そのワカメ、ヒジキがあったのが全く１本も見られない状況になっているのは現状かと思います。

それでは、対馬の山林、里山について、上空から見た対馬の山林は緑に覆われて美しい島です。島外から来られたお客様が対馬の景観だけは関心をされて、素晴らしい、美しい島だと、喜んで来ていただいておりますが、しかし、山林の中に一歩踏み込めば、数十年前までは青々と茂っておりました草花が全く全然と言っていいだけ、なくなっております。地肌が丸見えの現況でございます。

奥山から里山まで、近年、林業公社造林地を４５年生かな、４０年生から５０年生の間伐事業が今、我々地区の中で行われておりますが、地上から２メートルから３メートルの材木は製品にはならないそうです。ほとんどチップ材に回されておられるそうでございます。これは何かと言えば、鹿がつくった、鹿の角で傷ついた材料がその３メートルぐらいまでの間の一番大事な、大切な、材積の中で、金にならない。鹿の被害です。これは、我々地区においては、相当の損害でございました。

全島を見回しても、山に入って見てきましたけれども、奥山から里山まで森林の中は全く昔と変わってしまいました。激減をいたしておりますのが現状であります。

特にシイタケ産業の島でありましたシイタケ原木の伐採跡地、原木を伐採したら次の年から萌芽していくわけでございますが、その萌芽した木の芽を鹿が完全に食べてしまい、１年、２年、３年もすればもうその株は死んでしまいます。本当にこの鹿被害によりシイタケ農家は絶滅の山を見て本当にやる気をなくしていただいておりますよ。シイタケ栽培農家の打撃は相当なものであるというのが現況であります。

対馬のシイタケ栽培については、対馬の基幹産業として昭和の時代には、最高のときは５万トンを目指すだけの産業でございましたけれども、現在では農と水と林、農林水産業の人口減少、それが大きいのじゃないかなと。対馬の基幹産業の衰退は鹿の被害による甚大な大きな問題と思っております。

さらに、対馬の希少動物でありますツシマヤマネコ、そして今一番に対馬のミツバチ、そして対馬の高麗キジ、これが近年になって急に減少の一途をたどっているわけでございます。特に高麗キジなんか数十年前までは毎朝、私を起こしてくれるぐらいに鳴いてくれていたものが、ここ

１０数年全く聞こえなくなりました。そして、見ることもできなくなりました。

それも影響は鹿の山林食害、これによって激減をしてしまっている、この対策を今後どのようにしていけばいいのか、これをひとつ市長のお考えをお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　今、対馬の中は磯焼けの進行が進むと、進んでいると、これも一つの原因としては鹿が森林の下層植物を食べてしまうことによる被害の拡大ではないかというようなことであろうかというふうに思います。

そういう中で、この鹿対策はどのようにやっていくんだというような御質問でございましたけれども、冒頭、御説明を申し上げましたように、鹿の被害については、我々行政としても非常に重く受けとめているところでございまして、ましてこの今鹿の捕獲対策に一生懸命取り組んでいただいております対馬の猟友会の皆様の高齢化も進んできているというような中で、今後、この捕獲者を増やしていくことが一番重要ではないかというようなことから、捕獲従事者となる試験を受けられる方への受験経費の補助、そしてまた、新たに捕獲者と、捕獲従事者となられる方へのわなの講習やら、そのわなを補助するというようなことを、まず取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございまして、その中でも、この対馬市の有害鳥獣被害対策強化月間として、この１２月１日から１月３１日まで２か月間、これは対馬市が初めての取組ではないかというふうに思っておりますけれども、この中でも強化をしながら鹿の捕獲頭数に応じてくくりわなを支給してまいりたいというふうに考えているところでございます。

そのほかに、まだまだ猟友会と力を合わせた共猟とか、共同狩猟、こういったところも今後も一生懸命にやっていきたいと、思いを持っているところでございますので、今後とも御理解を賜りますようにお願いをしたいと思っております。

○議長（小川　廣康君）　１３番、齋藤久光君。

○議員（１３番　齋藤　久光君）　今、市長からお聞きしましたけれど、鹿対策については、いろいろと今後の事業についてお聞きしましたので、私も一人の猟師として、今、有害対策の一員でもございますので、今年おかげで受験者もわな猟を約６０名、そして銃のほうが十五、六名の受験をされましたので、今、先ほど市長から１９０何名が今の会員ということでございますんで、約２５０名ぐらいの、恐らく試験もまだ終わってしまっておりませんけど、なるんじゃないかなと、大変期待もしているところでございます。

どうしてもこの鹿対策だけはしっかりと頑張っていかなければできない、今対馬で一番大きな事業ではないかなと。それで、何とか抑えきればというように、いろいろな農林水産の後押しになろうかなと、本当にシイタケ栽培があれだけ２，０００人を超す農家がいたのがもう本当に少

ない数戸になりましたので、大変残念に思っておりますが、この鹿対策を何とかしない限りは、非常に復活が難しいんじゃないかなということをお願いしまして、次の小島議員にバトンを移したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　会派つしま、５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　会派つしまの小島徳重でございます。関連質問をさせていただきます。

今、会派代表は、対馬市の森、里の荒廃の現状とその打開策についてお尋ねしましたが、私は、森、里とつながっている海の生態系の回復についてお尋ねします。

対馬市ＳＤＧｓ未来都市計画の海洋生態系の回復については、海ごみ回収、海洋プラスチックごみの再利用の項目は、目標・方策が確立し、事業実績も評価できるというふうに思っております。

特に、先般、ポリタンクからポリ袋を再生するという事業が伊藤忠商事において可能になったというふうに報道も受けておりますし、そういう実績を評価したいとは思います。

しかし、他の項目については、まだ現状分析、あるいは明確な方針等が見えてこない面があると思います。それで、私は今、齋藤議員が触れたように、特に海洋生態系の中でも磯焼け、藻場の回復に焦点を絞って、それに関連することをお尋ねをしたいと思います。

海あっての対馬、対馬の持続可能な発展は海の幸をいかに取り込むかにかかっていると思います。水産業の活性化のためには、海洋生態系の回復は不可欠です。市長の海洋生態系の回復、水産業の活性化への熱い思いを聞かせていただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　小島議員の質問にお答えいたします。

対馬市における海洋生態系の動向につきましては、四方が海に囲まれているということから、近年、各地先の海岸で日本や近隣諸国で発生したごみが大量に漂着しており、生態系を含む海岸環境の悪化、また美しい浜辺の喪失、海水浄化機能の低下とこれらの複合的な要因によります水産業への影響が危惧されているというようなことは、私も同様に考えているところでございます。

このような状況を受けて、海岸漂着物処理推進法の施行、長崎県による長崎県地域計画の策定を踏まえて、本市におきましても、対馬市海岸漂着物対策推進行動計画として海岸漂着物対策に関わる現状と課題を整理し、それらに対する具体的対策を示すことで、海岸漂着物対策の推進に努めているところでございます。

対馬市の主要産業であります水産業においても、気候変動による海水温の上昇や漂流ごみ、特に海中にとどまるプラスチック系ごみによる漁業への影響も懸念されておりまして、食の安心、安全に関わる重要な問題と考えております。